

樹冠を覆う特定外来生物

ツルヒヨドリ

株式会社南西環境研究所
自然環境室
徳丸 慶太郎

Mikania micrantha キク科 ミカニア属

ツルヒヨドリは、南北アメリカの熱帯地域を原産とするつる性植物であり、日本では1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見され、その後、沖縄島中部を中心に北部や南部、先島諸島にも分布域を拡大させており、今後もさらなる分布の拡大が懸念される。なお、本種の外来種としての指定状況は、特定外来生物、沖縄県対策外来種の重点対策種、世界の侵略的外来種ワースト100、となっている。

■分布

南北アメリカの熱帯地域が原産。現在では、南太平洋や東南アジアの多くの国で分布が報告されている。日本においては、奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島及び与那国島で分布が確認されている。沖縄県内においては、林縁、河川及び湿地に多くみられ、耕作地への侵入も確認されている。

■形態

つる性の多年生草本で、葉の長さは4～13cm、幅5～10cm、対生である。葉形は、ほこ形～心形、鋸歯縁、葉の表面に光沢がある。比較的の同定は容易ではあるが、見分け方については、環境省のパンフレットを参照されたい。

■生態的特性及び被害

本種は、「Mile-a-minute weed」(1分で1マイル広がる雑草)とも呼ばれるほど旺盛に生長し、風散布による高い繁殖力を持つ。沖縄島では、秋季(11月頃)に開花し、冬季(12～1月頃)に結実する。

本種が及ぼす影響としては、旺盛な生長により樹冠の上を這うように覆うことから、在来植物やサトウキビ等の粗放的管理下にある作物を被圧することによる被害が生じると考えられる。南太平洋や東南アジア地域においては、ココナッツ、コーヒー、アブラヤシ及びゴムの耕作地に繁茂し、大きな被害を与えている。

■防除に関連する情報

沖縄県内において防除が進められている地域は、世界自然遺産登録地である大宜味村に位置する田嘉里川とその周辺、竹富町に位置する西表島である。また、名護市は、ツルヒヨドリ防除実施計画を策定し、行政と市民が一体となった防除体制の構築を進めている。防除手法としては、人の手による抜き取り、グリホサート系薬剤の葉面散布や葉面塗布が実施されている。しかし、旺盛

な生長と高い繁殖力を有するツルヒヨドリが分布拡大した際に、抜き取り等の物理的駆除は大きな作業量を要する。また、これまでの駆除に係る情報を勘案すると、グリホサート系薬剤の葉面散布や葉面塗布は効果が高くない可能性があることから、グリホサート以外の薬剤についても効果検証を行い、効率的な防除手法を確立する必要があると考える。海外では化学的防除として、グリホサートに加え、トリクロピルや2,4-D等の薬剤が使用されていたり、生物的防除としてさび病菌によりツルヒヨドリの生長を抑制する取組が実施されている。

■参考文献

沖縄県 2020. ツルヒヨドリ防除計画.
環境省沖縄奄美自然環境事務所ホームページ.ツルヒヨドリ パンフレット.
<http://kyushu.env.go.jp/okinawa/wildlife/index.html#gairai>
名護市 2021. 名護市ツルヒヨドリ防除実施計画. 名護市.
<http://www.city.nago.okinawa.jp/articles/2021070100139/>
CABI ホームページ. Invasive Species Compendium. *Mikania micrantha*.
<https://www.cabi.org/isc/datasheet/34095>



図-1 樹冠を覆うように広がるツルヒヨドリ



図-2 ツルヒヨドリの種子